

—原著—

新潟大学医歯学総合病院口腔再建外科における外来および入院患者の臨床統計的観察

齋藤直朗¹⁾, 芳澤享子¹⁾, 小田陽平¹⁾, 倉部華奈¹⁾, 齋藤大輔¹⁾, 新美奏恵^{1,2)}, 鈴木一郎^{1,2)}, 小林正治¹⁾

新潟大学大学院 医歯学総合研究科 顎顔面再建学講座 組織再建口腔外科学分野 (主任: 小林正治 教授)¹⁾

新潟大学医歯学総合病院 地域保健医療推進部 (主任: 遠藤直人 部長)²⁾

Clinico-statistical Survey of Outpatients and Inpatients in the Department of Oral Reconstructive Surgery

Naoaki Saito¹⁾, Michiko Yoshizawa¹⁾, Yohei Oda¹⁾, Kana Kurabe¹⁾, Daisuke Saito¹⁾,
Kanae Niimi^{1,2)}, Ichiro Suzuki²⁾, Tadaharu Kobayashi¹⁾

*Division of Reconstructive Surgery for Oral and Maxillofacial Region, Department of Tissue Regeneration and Reconstruction, Niigata University Graduate School
of Medical and Dental Sciences (chief: Prof. Tadaharu Kobayashi)¹⁾*

Division of Community Health Promotion, Niigata University Medical and Dental Hospital (chief: Prof. Naoto Endo)²⁾

平成 25 年 4 月 12 日受付 平成 25 年 4 月 16 日受理

キーワード: 臨床統計的観察, 口腔外科, 病診連携

Key words: clinico-statistical survey, oral and maxillofacial surgery, medical cooperation with clinics

Abstract :

Niigata University Medical and Dental Hospital was established in 2003 by integration of the University Medical Hospital and the Dental Hospital. Since the wards have been integrated and regional medical liaison system has been introduced, Niigata University Medical and Dental Hospital has been playing an increasingly important role as an advanced treatment hospital. In recent years, the aging of society in Japan have been progressing, and there is a need to respond to these changes also in dentistry. A university hospital is now required not only to provide advanced medical care and specific education but also to provide high-quality and advanced medical care to local residents and to work closely with the community. We therefore carried out a clinico-statistical survey of outpatients and inpatients in the Department of Oral Reconstructive Surgery after the hospitals and wards had been integrated to clarify the role in the local community. Results of the survey showed that the total number of new patients from 2003 to 2012 was 16,742. Referral rate increased from 68.9% to 87.6%, and the number of patients without referral sharply declined. The reverse referral rate was about 40%, which is lower than the referral rate. General dental disease, inflammatory disease, disease of skin and oral mucosa, and obstructive sleep apnea syndrome (OSAS) occupied high rate in the outpatient. There were high frequencies of malignant tumor and jaw deformity requiring multidisciplinary treatment in the inpatients. These results indicate that, with the high referral rate, our department was functioning as a department providing a high level of medical care, and also was promoting medical cooperation with other clinics. However, the reverse referral rate should be improved and a medical system should be established to promote further cooperation with the local community.

抄録 :

新潟大学医歯学総合病院は 2003 年に医学部附属病院と歯学部附属病院から統合され、その後、病棟の統合や地域連携システムの導入が行われて、ますます特定機能病院としての役割を果たすように変革を遂げてきている。近年、超高齢社会を背景として疾病構造など医療事情は大きく変化してきており、歯科においてもこれらの変化に沿った対応が求められている。特に大学病院では従来の高度な先進医療の提供や教育機関としての役割だけでなく、これまで以上に地域と密接に連携し、地域住民に広く高度で質の高い医療を提供していくことが必要である。そこで、今回わ

れわれは口腔再建外科が大学病院口腔外科として、これまで地域との連携においてどのような役割を果たしてきたのか、そして、今後どのように発展させていくべきかということをも明らかにすることを目的として、病院統合、病棟移転後の当科における外来初診患者および入院患者の臨床統計的観察をおこなった。

その結果、対象期間中の新患者総数は16,742人であった。紹介率は68.9%から87.6%と年々増加しており、紹介なしでの受診患者は大幅に減少した。また、逆紹介率は約40%と紹介率に比して低いものであった。外来患者では歯の疾患、炎症性疾患、粘膜・皮膚疾患、睡眠時無呼吸症候群（以下、OSAS）といった症例が多く、入院患者では集学的治療を要する顎変形症や悪性腫瘍の割合が高かった。

これらの結果より、当科は特定機能病院として高い紹介率のもと、高次医療提供病院として機能しているとともに、地域医療機関との病棟連携も推進されていると考えられたが、逆紹介率の改善など、さらに地域との連携を推進できるような診療体系を構築すべきであると考えられた。

【緒 言】

新潟大学医歯学総合病院は、「生命と個人の尊重を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人の育成」を理念とし、「患者本位の安全で安心できる医療の提供」、「豊かな人間性と高い倫理性を備えた医療人の育成」、「研究成果を反映した高度で先進的な医療の実践」、「地域医療を推進するとともに地域の医療水準向上への貢献」、「病院運営の適正化と効率化の促進」を目標としている。

2003年に新潟大学医学部附属病院と歯学部附属病院から医歯学総合病院へと統合されたことに伴い、歯科も特定機能病院となった。特定機能病院は他の病院や診療所からの紹介により高度な医療の提供、開発及び評価、並びに研修を実施できる能力をもつ病院とされ、紹介率30%以上の維持、10科以上の診療科、病床数400床以上の保有などがその条件とされている¹⁾。また、病院統合の一環で2005年には歯科および口腔外科病棟も新病棟に移転し、医科と歯科においてより緊密な連携が可能になった。さらに、2011年7月には地域における患者情報の共有化を目的に地域連携システムが導入され、ますます特定機能病院としての役割を果たすように変革を遂げてきている。

近年、超高齢社会に伴って疾病構造など医療事情は大きく変化してきており、歯科においてもこれらの変化に沿って患者のニーズに則した対応が求められている。特に大学病院では従来通りの高度先進医療病院や研修、教育機関としての機能のみならず、これまで以上に地域と密接に連携することで、地域住民に広く高度で質の高い医療を提供していくことが必要である。

このような時代背景の中で、口腔再建外科が大学病院口腔外科として、高度な先進医療の提供や研修、教育機関としての役割だけでなく、これまで地域との連携においてどのような役割を果たしてきたのか、そして、今後どのように発展させていくべきかということをも明らかにすることを目的に、今回、病院統合、病棟移転後の当科に

おける外来受診患者および入院患者の臨床統計的観察をおこなったので報告する。

【対象と方法】

対象は2003年1月から2012年12月までの10年間に新潟大学医歯学総合病院口腔再建外科を受診した外来初診患者、および新病棟移転後の2005年1月から2012年12月の8年間の入院患者である。

外来初診患者数、院外の歯科および医科からの紹介患者数に基づいた院外紹介率、院外紹介に加え院内の歯科および医科からの紹介患者数も含めた全紹介率、紹介の有無ならびに院内外別に分類した紹介元別比率、紹介患者のうち専門治療が終了した後に医療の継続を目的に逆紹介を行った患者の割合である逆紹介率、外来初診患者疾患別症例数、入院患者数、入院患者疾患別比率について調査した。疾患名についてはカルテ記載を元にICD-10に則して、歯の疾患、炎症性疾患、悪性腫瘍、良性腫瘍、嚢胞性疾患、顎変形症、外傷、顎関節疾患、粘膜・皮膚疾患、睡眠時無呼吸症候群、唾液腺疾患、先天性疾患、歯科心身症、神経疾患、その他に分類した。歯の疾患は埋伏歯、う蝕あるいは歯周疾患に伴うものとし、歯数で扱った。その他の疾患については原則一患者につき一症例として計算した。

【結 果】

1. 外来初診患者数

2003年から2012年の10年間に当科を受診した初診患者総数は16,742人であり、1年あたりの初診患者数は緩やかに増加していた（図1）。また、歯科全体の外来初診患者数は歯科が特定機能病院となった翌年には大きく減少したが、当科の外来初診患者数には大きな変化はなかった。

2. 紹介率、紹介元別比率

当科の院外紹介率は2003年には68.9%であったが、